



1. 大学の方針

人材養成の目的【大学全体】

東海学園大学は、勤儉誠実の信念と共生（ともいき）の理念に基づく人間力の向上を核とし、社会の発展と文化の向上に寄与できるよう、総合的教養教育と専門教育を通して幅広い職業人の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【大学全体】

1. 「知識・理解」

1. 自然と社会と人間とのかかわりに関心を持ち、幅広い知識と教養を身に付けることができる。
2. それぞれの専門分野における基本的な知識を体系的に身に付けることができる。
3. 世界の多様な文化、思想、歴史について幅広く理解することができる。

2. 「汎用的技能」

1. 日本語及び外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、話すことができる。
2. それぞれの専門分野について、問題を発見することができる。
3. 情報・資料の収集、普遍的な尺度や数量的指標を用いた分析、論理的な思考を用いて問題を解決し、その結果を表現することができる。

3. 「態度・志向性」

1. 自分を律して行動し、何事にも誠実に取り組むことができる。
2. 他者から学ぶ姿勢をもち、共に生かし合い仕事や研究を進めることができる。
3. 職業人としての倫理観・使命感・責任感を身に付け、社会に貢献することができる。

4. 「統合的な学習経験と創造的思考力」

卒業論文や卒業研究等の作成を通して、自らが立てた新たな課題を解決することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【大学全体】

1. カリキュラム（教育課程）は、全学部とも「全学共通科目群」「専門科目群」「演習科目群」の3つの科目群によって構成する。なお、その他に「免許・資格関連科目群」がある。
2. 「全学共通科目群」は、全学部で共通に開講する科目群であり、「ともいき人間教育」「ともいき教養教育」「ともいき実践教育」を柱に、「日本語」「英語」「情報」「身体教育」「外国語コミュニケーション」「キャリア形成」の各分野の科目によって構成する。
3. 「専門科目群」では、各学部の専門分野における「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」の修得・深化をめざす科目を体系的に配置する。

4. 「演習科目群」では、1年次から2年次において幅広い教養の獲得をめざす基礎的演習を開講する。また、3年次から4年次において専門的知識の修得をめざすとともに、4年間の学習成果のまとめとして卒業論文や卒業研究などを作成する演習を開講する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【全学共通科目群】

1. 「知識・理解」

1. 「共生」と「勤儉誠実」の考え方を理解し、それらに基づいた人間観や自然観、及び価値観を身に付けることができる。
2. 国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化について理解することができる。
3. 人文、社会、自然等の各分野に関連する事柄について、「持続可能な開発目標」（SDGs）をキーワードに体系的・総合的に理解することができる。

2. 「汎用的技能」

1. 日本語を用いて、的確に読み、書き、聞き、話すことができる力を身に付けることができる。
2. 国際社会において、的確にコミュニケーションを図ることができる英語等の語学力を身に付けることができる。
3. 情報通信技術を用いて、情報を入手し、分析し、活用するとともに、有益な情報を社会に発信することができる。
4. SDGsをキーワードに、人が人としてよりよく生きていくために、修得した知識を基に、自ら問題を発見し、科学的、及び総合的に問題を捉え、解決方法を見出す汎用的能力を身に付けることができる。

3. 「態度・志向性」

1. 健康づくりの習慣や、自己管理能力などの態度を身に付け、自分を律し、何事にも誠実に最後まで取り組むことができる。
2. 社会人として責任ある態度を身に付けるとともに、様々な価値観や視点から、柔軟かつ論理的思考を基に行動することができる。
3. SDGsで掲げられている課題に対し、自らの問題として捉え、身近な所から取り組むことにより、持続可能な社会を創造する力を身に付けることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【全学共通科目群】

1. 「ともいき人間教育」の分野では、仏教の立場から「共生（ともいき）」について考察する。具体的には、環境や他者の存在により自己が活かされていること、自己中心的な在り方の反省、自己能力の惜しみない提供、相互補完の精神などを学ぶ。これらを通して、共生と勤儉

誠実の考え方を身に付ける。

2. 「ともいき教養教育」の分野では、「共生（ともいき）」の精神のもと、人文・社会・自然科学の領域横断的・多面的な思考力を修得し、持続可能な社会発展のため、自分たちに何ができるかを主体的・協働的に問題を発見し、解決する能力を身に付ける。
3. 「ともいき実践教育」の分野では、SDGsをキーワードとした地域社会における実践的な体験や海外留学・研修を通して、多文化共生に対する理解を深め、自ら考え行動する力を身に付ける。また、日本文化を通して歴史や伝統・文化について理解を深めるとともに、SDGsを学ぶ。
4. 「日本語」の分野では、日本語を的確に読み、書き、聞き、話す能力を身に付ける。
5. 「英語」の分野では、日常会話レベルの会話能力を身に付けるとともに、十分な読み、書き能力も身に付ける。また、これからの多文化共生社会で生きるためのグローバルな視点を身に付ける。
6. 「情報」の分野では、情報通信技術を用いて多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用する技能を身に付ける。
7. 「身体教育」の分野では、スポーツを通じた健康づくりの習慣や、自己管理能力・チームワーク・勤儉誠実・共生などの態度を身に付ける。
8. 「外国語コミュニケーション」の分野では、各言語での日常会話レベルの会話能力を身に付け、基礎的な読み、書き能力を身に付ける。また、これからの多文化共生社会で生きるためのグローバルな視点を身に付ける。
9. 「キャリア形成」の分野では、職業人として働くことの意義を理解し、社会の発展に貢献する態度を身に付ける。また、ボランティアを通して自主性・主体性を養い、ともに支え合い学び合うことにより社会に貢献する態度を身に付ける。

人材養成の目的【教育学部】

教育学部は、勤儉誠実の信念と共生（ともいき）の理念に基づく人間力の向上を核とし、人を慈しみ尊重する態度をもつとともに教育職並びに保育職に対する責務を自覚し、乳幼児・児童・生徒（以下、子どもたち）の成長発達及び健康に関わる幅広い専門的知識と問題解決能力をもち、安全・安心な教育・保育環境を整え、心身ともに健康な子どもたちの育成と一人ひとりの能力を充分発揮できる健全な社会の構築に貢献する教育や保育にかかわる人材を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【教育学部】

1. 「知識・理解」

1. 健全な社会を構成する市民として必要な公民的資質と、教育者・保育者として必要な幅広い教養を身に付けている。
2. 教育者・保育者の基盤となる教育や保育並びに健康に関する理論を理解している。
3. 基盤となる理論を基に、子どもたちの心身の発達や健康に関する知識、教育・保育の内容や方法に関する知識を体系的に修得し理解したうえで、実践的な指導に結び付けることができる。

2. 「汎用的技能」

1. 多世代にわたる対人関係を円滑に進めるための、コミュニケーション能力及び豊かな表現力を身に付けている（コミュニケーション・スキル）。
2. 様々な媒体を用いて、教育や保育に関する多様な情報を選択分析し、実践の場において適切に活用することができる（情報リテラシー）。
3. 教育や保育をめぐるさまざまな今日的課題の把握に努め、これらの課題を論理的に分析し、表現することができる（論理的思考力）。
4. 教育活動や保育活動に取組み、高い成果を上げるための技能を身に付け、教育や保育における問題に的確な判断を下し、問題を解決することができる（問題解決力）。

3. 「態度・志向性」

1. 自分を律して行動し、何事にも誠実に全力で取り組むことができる（自己管理能力・勤儉誠実）。
2. 他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合い学習や研究を進めることができる（チームワーク・共生）。
3. 教育や保育に関する専門的職業人としての使命感や責任感を身に付け、良識ある市民として社会において適切な行動をとることができる（倫理観・社会的責任）。

4. 「統合的な学習経験と創造的思考力」

卒業論文や卒業研究等の作成を通して、自らが立てた新たな課題に向き合い、解決することがで

きる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【教育学部】

教育学部は、幅広い教養及び専門的知識をもち、人を慈しみ尊重する態度をもつとともに、子どもたちの成長発達及び健康に関わる幅広い専門的知識と問題解決能力をもち、安全・安心な教育・保育環境を整え、心身ともに健康な子どもたちの育成と、一人ひとりの能力を充分発揮できる健全な社会の構築に貢献する教育や保育にかかわる人材の養成を目的としている。この目的を達成するため、学校教育専攻、保育専攻、養護教諭専攻の3専攻を置き、学校教育専攻では小学校教諭及び幼稚園教諭または中学校理科教諭、中学校・高等学校英語教諭、保育専攻では幼稚園教諭及び保育士、養護教諭専攻では養護教諭、中学校・高等学校保健教諭の免許・資格取得に必要なとされる科目や子どもたちのみならずその保護者や広く社会に関する専門的・実践的な科目を開講している。

専門科目は、「基幹科目」「展開応用科目」によって構成する。「基幹科目」では、学校教育・保育・健康教育の本質や理念並びに意義を理解するための科目を開講し、これらを履修することによって、教育者並びに保育者としての使命感と責任感を養う。「展開応用科目」では、幅広い専門的知識と技能を身に付けるために、子どもたちの心身の発達や健康に関する科目、教育・保育の内容や方法に関する科目を基礎から応用へと体系的に展開している。これらの科目を履修することにより、取得する免許・資格に応じて、主として幼稚園教諭、小学校教諭、中学校理科教諭、中学校・高等学校英語教諭、養護教諭、中学校・高等学校保健教諭、並びに保育士を養成する。

演習科目では、教育者・保育者として必要な基礎的な資質・能力を養うために、1年次から2年次までは「基礎演習」を開講し、専門的知識及び実践力を養うために、3年次から4年次までは「専門演習」を開講する。また、1年次から4年次まで「教育キャリア演習」を開講し、教育者・保育者として必要な資質・能力・意欲の養成をめざす。さらに、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校理科教諭、中学校・高等学校英語教諭、養護教諭、中学校・高等学校保健教諭、並びに保育士の免許・資格に必須の実習科目を開講している。